

## 群の直積とその表現について

東京教育大 大学院 光 道隆

### §0. 序

例えば次の様な問題を考えよう。“ $\pi$  を finite abelian group,  $Q$  を有理数体,  $\mathbb{Z}$  を有理整数環,  $\mathcal{O}$  を  $\mathbb{Z}\pi$  を含む  $Q\pi$  の maximal order とする。その時,  $\text{Pic}(\mathbb{Z}\pi) \xrightarrow{\varphi} \text{Pic}(\mathcal{O})$  の  $\text{Ker } \varphi$  はどのように捕らえられるか?” この問題に関して R.G. Swan, 宮田武彦氏により次の結果がえられている。 $\pi$  の subgroup  $\pi'$  に対し  $\mathbb{Z}\pi \otimes_{\mathbb{Z}\pi'} \mathbb{Z}$  という型の  $\mathbb{Z}\pi$ -module の有限個の direct sum を permutation  $\pi$ -module,  $\pi$ -permutation module  $\exists S, \exists S', 0 \rightarrow M \rightarrow S \rightarrow S' \rightarrow 0$  (exact) と書ける  $\mathbb{Z}\pi$ -module  $M$  を quasi-permutation  $\mathbb{Z}\pi$ -module とよぶ時,  $\pi$  が cyclic group ならば,  $\text{Ker } \varphi = \mathfrak{q}\text{-Pic}(\mathbb{Z}\pi) = \{[I] \mid I; \text{quasi-permutation } \mathbb{Z}\pi\text{-projective ideal}\}$  である。ところで,  $\pi$  が abelian group の時  $\mathfrak{q}\text{-Pic}(\mathbb{Z}\pi) \subset \text{Ker } \varphi$  は, Swan の方法により容易に証明できるが, その逆が言えるか

どうか問題である。宮田氏のうまい方法により cyclic の時は分っているのだから, abelian group の時の問題が cyclic の時に帰着できればと望むのは自然であろう。その様な事からも, 群の直積と表現との関係はどうなっているのか興味がある。今日述べるのは, その関係を調べるほんの半歩で, 上の表現との関係よりずっと以前の問題についてである。つまり,  $\pi$  を finite group,  $K$  を field,  $G_0(K\pi)$  を Grothendieck ring としたとき,  $\varphi: G_0(K\pi_1) \otimes G_0(K\pi_2) \longrightarrow G_0(K[\pi_1 \times \pi_2])$   
 $\varphi([M_1] \otimes [M_2]) = [M_1 \# M_2]$ , の Kernel, Cokernel を考えるのである。もちろん  $M_1 \# M_2$  は  $M_1, M_2$  の outer tensor product である。

### §1.

まず, Fein[2]にしたがって,  $\varphi$  を Schur index を用いて捕らえよう。

$E$  を  $K$  上 finite な normal separable extension で  $\pi$  の splitting field になっているものとする。  $\mathcal{G}(E/K)$  を  $K$  上  $E$  の Galois group, 一般に  $E\pi$ -module  $N$ ,  $\sigma \in \mathcal{G}(E/K)$  に対し,  $\sigma N$  を自然に定義し,  $N$  の character を  $\chi$  としたとき,  $\sigma N$  の character を  $\sigma\chi$  と書く。  $m_K(N)$  で  $N$  の  $K$  上の Schur index を表わし,  $\pi = \pi_1 \times \pi_2$  と置き,  $M_i$  を irreducible  $K\pi_i$ -module,  $N_i$  を  $M_i^E$  の irreducible  $E\pi_i$ -component,  $\psi_i$  を  $N_i$

の character,  $\mathcal{H}_i = \mathcal{G}(E/K(\psi_i))$  と書く。

次の事実 *Fein* [2] にのっている。

- (1)  $\sigma, \tau \in \mathcal{G}(E/K)$  とすると  $\sigma N_1 \# \tau N_2$  は irreducible module で,  $m_K(N_1 \# N_2) = m_K(\sigma N_1 \# \tau N_2)$  である。
- (2)  $M_1 \# M_2$  は完全可約で,  $M_1 \# M_2 \cong k(T_1 \oplus \dots \oplus T_r)$ , ここで  $\{T_i\}$  は nonisomorphic irreducible  $K\pi$ -module で,  $k$  は  $m_K(N_1) m_K(N_2) / m_K(N_1 \# N_2)$  に等しい。さらに  $T_i$  はそれぞれ同じ  $K$ -dimension  $m_K(N_1 \# N_2) (K(\psi_1, \psi_2) : K) (N_1 \# N_2; E)$  をもっている。
- (3)  $M_1 \# M_2$  が irreducible module であるための必要十分条件は次の3条件である。
- (a)  $m_K(N_1) m_K(N_2) = m_K(N_1 \# N_2)$ .
- (b)  $\mathcal{G}(E/K) = \mathcal{H}_1 \mathcal{H}_2$ .
- (c)  $(K(\psi_1) : K) (K(\psi_2) : K) = (K(\psi_1, \psi_2) : K)$ .
- (4)  $\pi_1 = \pi_2$  のとき, irreducible  $K\pi_i$ -module  $M_1$  について、次は同値である。

(a)  $M_1$  は absolutely irreducible  $K\pi_1$ -module である。

(b)  $M_1 \# M_2$  は irreducible  $K\pi$ -module である。

さて, (2) より  $\varphi$  は Schur index を用いて一応きまっている。

(4) は  $\pi_1 = \pi_2$  の時は  $\varphi$  が同型になるための必要十分条件は  $k$  が  $\pi_1$  の splitting field であることを主張している。つまり,

問題は Schur index に帰着されるのであるが、現在の Schur index の計算法では global なあつかいは無理である。以下では違った角度から調べてみる。最後に(3)からの簡単な系を書いておこう。

(5) group  $\pi$  の order を  $|\pi|$  と書く。

$$(|\pi_1|, |\pi_2|) = 1 \implies G_0(\mathbb{Q}\pi_1) \otimes G_0(\mathbb{Q}\pi_2) \xrightarrow{\mathcal{L}} G_0(\mathbb{Q}[\pi_1 \times \pi_2])$$

以下一つの目的はこの逆にあたる事を調べる事にある。

§2 道具をそろえる

以下 char.  $K = 0$  のときあつかう。

(1)

Lemma 1.  $\pi_i$  が abelian group ならば,  $\text{Ker } \mathcal{L} = 0$  で  $\text{Coker } \mathcal{L}$  は torsion free である。

これは,  $\pi_i$  が abelian group の時 Schur index が 1 である事に注意すれば §1 の(2)より  $\mathcal{L}$  が split map になることより分る。

さて,  $\pi'$  を  $\pi$  の subgroup とする時  $G_0(K\pi) \xrightleftharpoons[j_*]{j_*} G_0(K\pi')$  を functor  $\text{mod } K\pi \xrightleftharpoons[\otimes_{K\pi'}]{\text{res.}} \text{mod } K\pi'$  よりみちびかれる ring homomorphism とする。  $\pi_i \supset \pi'_i$  の時

$$\begin{array}{ccccccc} \text{Ker } \mathcal{L} & \longrightarrow & G_0(K\pi_1) \otimes G_0(K\pi_2) & \xrightarrow{\mathcal{L}} & G_0(K[\pi_1 \times \pi_2]) & \longrightarrow & \text{Coker } \mathcal{L} \\ \uparrow \downarrow & \circlearrowleft & \uparrow \downarrow & \circlearrowleft & \uparrow \downarrow & \circlearrowleft & \uparrow \downarrow \\ \text{Ker } \mathcal{L}' & \longrightarrow & G_0(K\pi'_1) \otimes G_0(K\pi'_2) & \xrightarrow{\mathcal{L}'} & G_0(K[\pi'_1 \times \pi'_2]) & \longrightarrow & \text{Coker } \mathcal{L}' \end{array}$$

であり, 一般に  $\varphi$  を調べるのに induction theorem は使用可能である。例えば, Artin の induction theorem を用いれば, 次の結果が得られる。

Proposition 2.  $\pi_i$  を finite group とすると  $\text{Ker } \varphi = 0$  である。

この Proposition は induction を用いなくても直接証明できる。

(2). Normal subgroup からの情報

$1 \rightarrow \pi_i' \xrightarrow{j} \pi_i \xrightarrow{P} \pi_i'' \rightarrow 1$  (exact)  $\pi_i' \triangleleft \pi_i$  とする。今, 又  $G_0(K\pi_i) \xleftarrow[\downarrow P_*]{\uparrow P^*} G_0(K\pi_i') \xleftarrow[\downarrow \text{res}]{\uparrow \cdot \otimes_{K\pi_i} K\pi_i''} G_0(K\pi_i'')$  よりみちびかれる ring homomorphism とする。

$$G_0(K\pi_i') \otimes G_0(K\pi_i'') \xrightarrow{\varphi_1} G_0(K[\pi_i' \times \pi_i'']) \xrightarrow{\varphi_1'} \text{Coker } \varphi_1$$

$$\begin{array}{ccccc} \uparrow P^* \downarrow P_* & \circlearrowleft & \uparrow P^* \downarrow P_* & \circlearrowleft & \uparrow P^* \downarrow P_* \end{array}$$

$$G_0(K\pi_1) \otimes G_0(K\pi_2) \xrightarrow{\varphi_2} G_0(K[\pi_1 \times \pi_2]) \xrightarrow{\varphi_2'} \text{Coker } \varphi_2$$

$$\begin{array}{ccccc} \uparrow j^* \downarrow j_* & \circlearrowleft & \uparrow j^* \downarrow j_* & \circlearrowleft & \uparrow j^* \downarrow j_* \end{array}$$

$$G_0(K\pi_1) \otimes G_0(K\pi_2) \xrightarrow{\varphi_3} G_0(K[\pi_1' \times \pi_2']) \xrightarrow{\varphi_3'} \text{Coker } \varphi_3$$

$M$  を  $K[\pi_1' \times \pi_2']$  の irreducible module とすると,

$$M^E \cong m_K(N_1 \# N_2) (N_1 \# N_2 \oplus \gamma(N_1 \# N_2) \oplus \dots) \text{ と書ける。}$$

ただし,  $E$  は § 1 の様に  $K$  上 finite normal separable な  $\pi_1' \times \pi_2'$  の splitting field,  $N_i$  は  $E\pi_i$ -irreducible module,  $N_i$  の character を  $\psi_i$  とすると,  $\gamma \in \mathcal{G}(E/K) / \mathcal{G}(E/K(\psi_1, \psi_2))$  である。Normal subgroup からの情報として 次の Lemma が



Lemma 4.  $\pi_i$  を abelian group とし,  $G.C.D. (e(\pi_1), e(\pi_2)) = \pi p^{h_p}$  と素元分解でき,  $K$  に含まれる 1 の原始  $p^S$  乗根のうち  $S$  の最大値をそれぞれ  $S_p$  とする。もし,  $h_p > S_p$  なる  $p$  が存在すれば,  $\varphi: G_0(K\pi_1) \otimes G_0(K\pi_2) \not\rightarrow G_0(K[\pi_1 \times \pi_2])$ .

§3. 応用

§2 で §3 えた道具をエイヤツと振回してみると, 次の事が出てくる。

(1). abelian group の時.

$K = \mathbb{Q}$ ,  $\pi_1 = (p^{n_1}, p^{n_2}, \dots, p^{n_\ell})$  型,  $\pi_2 = (p^{n_{\ell+1}}, \dots, p^{n_{\ell+k}})$  型の abelian group とすると,

Coker  $\varphi$  の rank

$$= \sum_{0 \leq t_i \leq n_i} \left\{ \varphi(p^{t_1}) \times \dots \times \varphi(p^{t_\ell}) \times \left[ \varphi(p^{\max(t_i)}_{1 \leq i \leq \ell+k}) - \varphi(p^{\max(t_i)}_{1 \leq i \leq \ell}) \varphi(p^{\max(t_i)}_{1 \leq i \leq k}) \right] \right\}$$

記号が繁雑になってしまったが, 芝内の  $\varphi$  は Euler の函数を表わすものとする。

(2). 任意の group について.

group  $\pi$  の center を  $Z(\pi)$  と書く。今,  $L.C.M. (e(Z(\pi/\pi_i)))_{\pi_i \triangleleft \pi} = \pi p^{m_p}$ ,  $L.C.M. (e(Z(\pi_2/\pi_2)))_{\pi_2 \triangleleft \pi_2} = \pi p^{n_p}$  と素元分解していきと仮定し,  $S_p$  を  $K$  に含まれる 1 の原始  $p^S$  乗根のうちで,  $S$  の最大値とする。  $\exists p$  s.t.  $\min(m_p, n_p) > S_p$

$$\Rightarrow G_0(K\pi) \otimes G_0(K\pi_2) \not\rightarrow G_0(K[\pi_1 \times \pi_2]).$$

(3)  $L.C.M. (e(Z(\pi/\pi)))_{\pi \triangleleft \pi} = h$  とすると,  $\pi$  の splitting field

は  $Q(\sqrt{1})$  を含む。

- (4)  $\pi_i$  を odd order の group とし,  $\exists p \mid (\|\pi_1\|, \|\pi_2\|)$ ,  $2 \mid (K(\zeta_p):K)$   
 $p$  は odd prime,  $\zeta_p$  は 1 の原始  $p$  乗根と仮定すると,  
 $G_0(K\pi_1) \otimes G_0(K\pi_2) \not\cong G_0(K[\pi_1 \times \pi_2])$  である。

Remark

特に  $K=Q$  とすれば,  $2 \nmid \|\pi_1\| \|\pi_2\|$  ならば

$$(\|\pi_1\|, \|\pi_2\|) = 1 \iff G_0(Q\pi_1) \otimes G_0(Q\pi_2) \cong G_0(Q[\pi_1 \times \pi_2]).$$

- (5)  $\|\pi\| = \prod_{i=1}^m p_i^{e_i}$  と素元分解でき, 任意の  $i, j$  について  $p_i \nmid p_j - 1$   
と仮定すると  $\pi$  の splitting field は  $Q(\zeta_{p_1 \cdots p_m})$  を含む。  
ただし,  $\zeta_{p_1 \cdots p_m}$  は 1 の原始  $p_1 \cdots p_m$  乗根である。

Solomon の結果とあわせれば, このような type の group  
の splitting field はきまったことになる。

Remark

Order  $n = p_1^{n_1} \cdots p_m^{n_m}$  を fix したとき, その order をもつ  
すべての group が nilpotent group であるための必要十分  
条件は  $p_j \nmid p_i^{n_i} - 1, n_i > \forall t \geq 0$  であるから, (5) は有意義であ  
る。

- (6) 2-group の時は, index 2 の cyclic subgroup をもつ  
ような group について考えてみる事が重要である。それは、  
任意の 2-group の character がある意味でその様な group の  
character によって表わされるからである。(Feit [3] p.73,



(14, 3) 参照).

$\epsilon = 3$  で, index 2 の cyclic subgroup を  $t$  group は次の type しかない.

$|\pi| = 2^{n+1}$  とする.

I.  $\pi = \langle s \mid s^{2^{n+1}} = 1 \rangle$ .

II.  $\pi = \langle s, t \mid s^{2^n} = 1, t^2 = 1, t s t^{-1} = s \rangle$

III.  $\pi = \langle s, t \mid s^{2^n} = 1, t^2 = s^{2^{n-1}}, t s t^{-1} = s^{-1} \rangle \quad n \geq 2$ .

IV.  $\pi = \langle s, t \mid s^{2^n} = 1, t^2 = 1, t s t^{-1} = s^{-1} \rangle \quad n \geq 2$

V.  $\pi = \langle s, t \mid s^{2^n} = 1, t^2 = 1, t s t^{-1} = s^{1+2^{n-1}} \rangle \quad n \geq 3$ .

VI.  $\pi = \langle s, t \mid s^{2^n} = 1, t^2 = 1, t s t^{-1} = s^{-1+2^{n-1}} \rangle \quad n \geq 3$ .

$G_0(\mathbb{Q}\pi_1) \otimes G_0(\mathbb{Q}\pi_2) \xrightarrow{\cong} G_0(\mathbb{Q}[\pi_1 \times \pi_2])$  となるのは

①  $\pi_1$  が type I で  $n=0$  又は II で  $n=1$ , IV で  $n=2$  で

$\pi_2$  が任意の type の時,

②  $\pi_1$  が type (I,  $n=1$ ), (II,  $n=2$ ), (III,  $n=2$ ), (V,  $n=3$ ) 又は

(VI,  $n=3$ ) で,  $\pi_2$  が type IV の時,

③  $\pi_1$  が type (I,  $n=1$ ), (II,  $n=2$ ), 又は (V,  $n=3$ ) で,  $\pi_2$  が type

VI の時だけである。

文献

[1] C.W. Curtis and I. Reiner: Representation Theory of Finite Groups and Associative Algebras, Interscience, 1962.

- [2] B. Fein ; Representations of direct products of finite groups, *Pacific. J. Math.*, 20. (1967)
- [3] W. Feit ; Characters of Finite Groups, Benjamin 1967
- [4] W. Feit and J. G. Thompson ; Solvability of groups of odd order, *Pacific. J. Math.*, 13 (1963)
- [5] L. Solomon ; The representation of finite groups in algebraic number fields, *J. Math, Soc. Japan* 13. (1961).
- [6] M. Hikari ; 準備中